

議案 2 檀原市生活交通確保維持改善計画について

橿原市生活交通確保維持改善計画とは

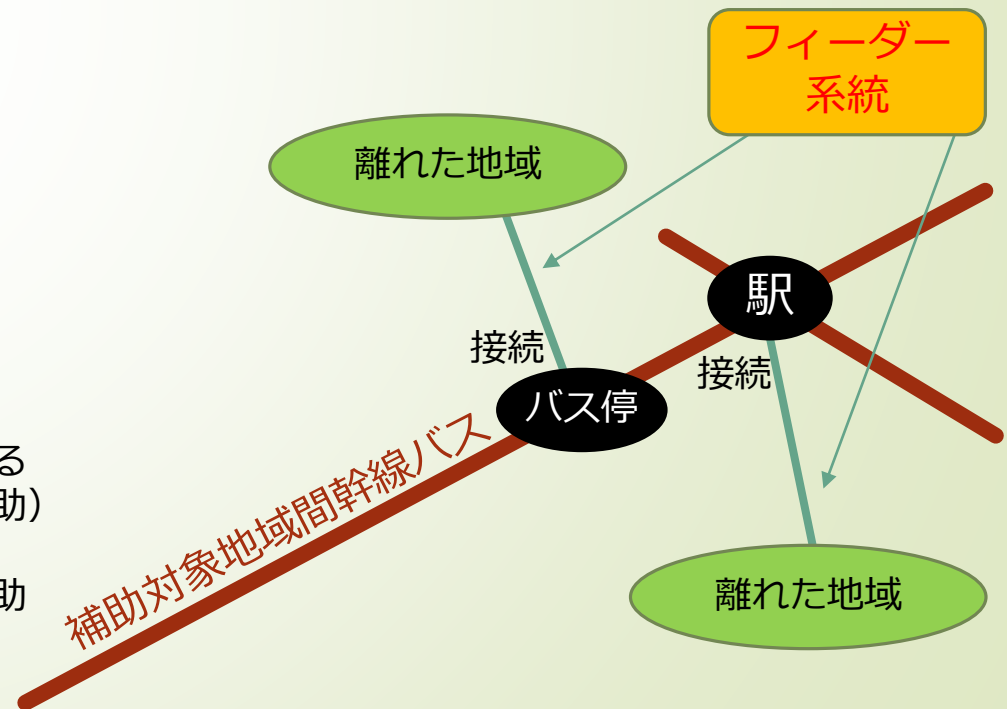
橿原市内で国庫補助（地域公共交通確保維持改善事業費補助金※）の交付を受けて運行している市内完結系統バス路線（フィーダー系統＝支線系統）については、毎年、その維持改善に向けた取り組みと定量的な目標を定め、国土交通大臣に認定申請を提出する必要がある。

＜橿原市の該当路線＞

- ・八木耳成循環線
- ・神宮イオンモール・神宮観音寺線
- ・かしはらしコミュニティバス

※「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」の補助メニューの1つである「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金」（通称：フィーダー補助）

幹線系統を補完する、赤字の支線（フィーダー）の運行経費に対する補助



フィーダー補助路線
(運行主体)

神宮イオンモール線
(奈良交通)

八木耳成循環線
(奈良交通)

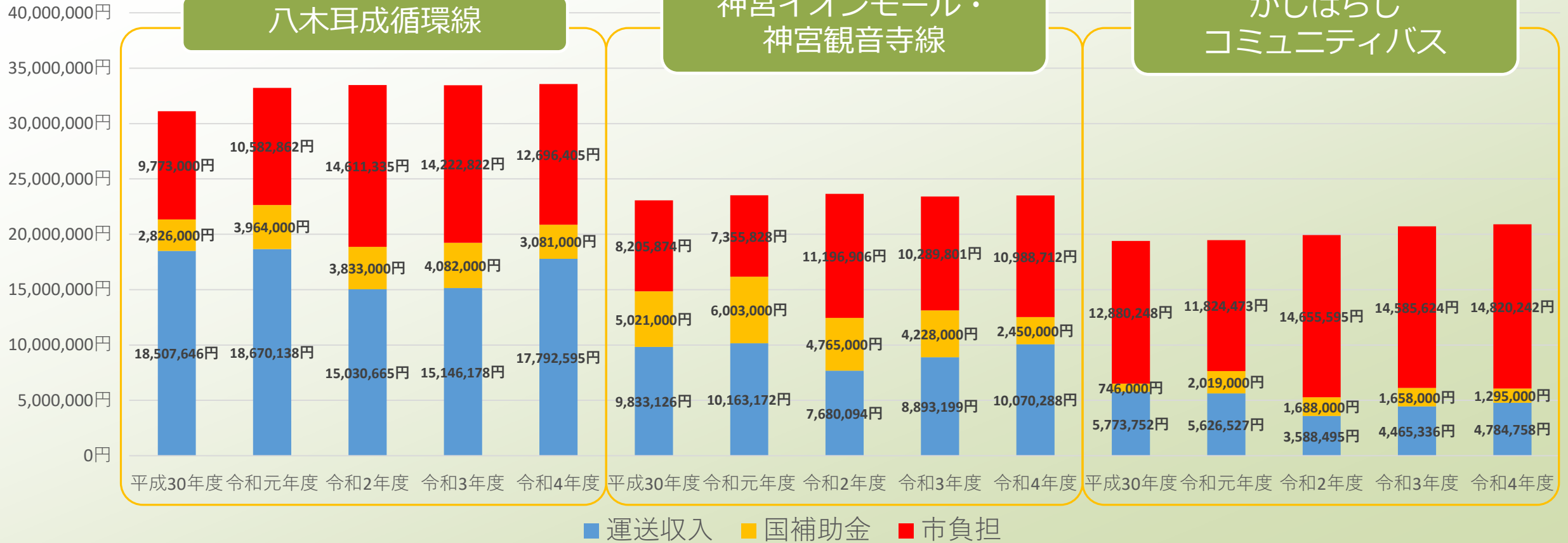
かしはらし
コミュニティバス
(橿原市(奈良交通委託))

神宮観音寺線
(奈良交通)

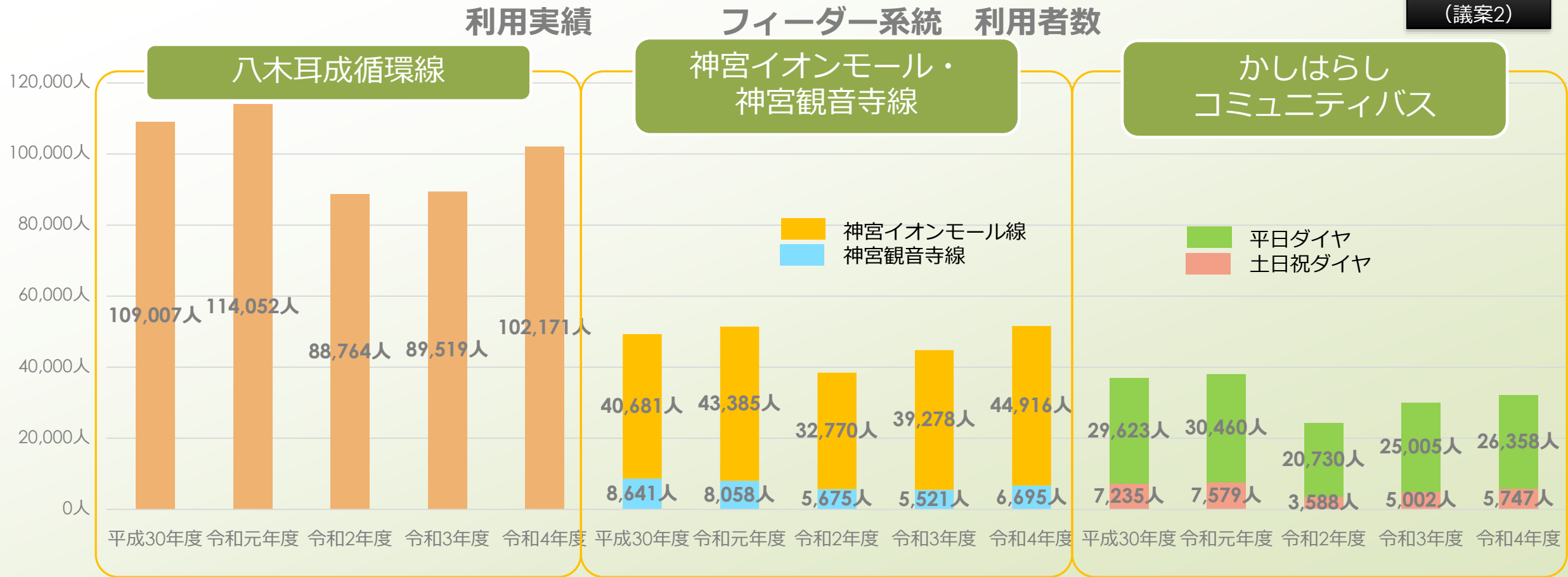


利用実績

フィーダー系統 収入状況内訳 (= 運行費用の財源)



令和4年度実績 (前年度比)	八木耳成循環線	神宮イオンモール・ 神宮観音寺線	かしはらしコミュニティバス
運行経費	33,570,000円 (+0.4%)	23,509,000円 (+0.4%)	20,900,000円 (+0.9%)
運送収入	17,792,595円 (+17%)	10,070,288円 (+13%)	4,784,758円 (+7%)
国補助金	3,081,000円 (-25%)	2,450,000円 (-42%)	1,295,000円 (-22%)
市負担	12,695,405円 (-11%)	10,988,712円 (+7%)	14,820,242円 (+2%)



	八木耳成循環線	神宮イオンモール・神宮観音寺線		かしはらしコミュニティバス	
利用者数	102,171人 (+14%)	51,611人 (+15%)		32,105人 (+7%)	
		神宮イオンモール線	44,916人	平日ダイヤ	26,358人
		神宮観音寺線	6,695人	土日祝日ダイヤ	5,747人

考 察

◆利用実績について

- 八木耳成循環線
 - コロナ前の9割程度まで利用が回復。県総合庁舎への通勤・施設利用等の需要を含め、全体的に利用が戻っている傾向。
- 神宮イオンモール線
 - 利用が増加しておりコロナ前の水準を超過している。主たる要因はイオンモールへの買い物・通勤需要の増加とみられる。また「高校生の利用が若干増加している」との声も伺っている。
- 神宮観音寺線
 - コロナ前の8割程度まで利用が回復。住民の利用が戻ってきている。
- かしはらしコミュニティバス
 - コロナ前の8割程度まで利用が回復。土日祝日ダイヤの増加率がより大きい点から、行楽利用の回復が考えられる。

◆運行費用について

- 利用増で運送収入は回復傾向だが、燃料価格高騰・人件費増等により経費は増加。また、コロナ禍により増額措置されていた国庫補助額が減少。

橿原市生活交通確保維持改善計画（今年度申請分）の概要

■ 事業の定量的な目標

- 八木耳成循環線：年間利用者数を103,300人以上とする。
- 神宮イオンモール・神宮観音寺線：年間利用者数を52,100人以上とする。
- かしはらしコミュニティバス：年間利用者数を33,000人以上とする。

■ 目標達成に向けた取り組み

- コミュニティバスについて、商業施設と連携した利用促進の検討を行い、実施を図る
- 公共交通利用の周知について、様々な媒体の活用など戦略的な広報を進める